

6. 地方創生交付金事業の検証

No	① 交付対象事業の名称	② 交付金の種類	③ 実績額 単位:円	④ 本事業における重要業績評価指標(KPI)		⑤ 本事業終了後における業績値	外部有識者からの評価 見	実績値を踏まえた事業の今後に ついて
				指標	指標値			
1	三方よし・近江日野まちなか観光交流拠点施設整備事業		26,108,000	指標① 伝承促進施設の利用者数 指標② 店舗施設売上高	30,000 250 千円	人 H30.3 H30.3	31,911 0	・チャレンジショップ等の運営ができるよう努めています。 ・施設の有効活用に努めています。 ・メンストリートとして見えてもらえる場所として活用でき、土産物販売を実施していくます。
2	近江日野産茶による西大路地区まちづくり活動拠点整備計画		15,217,000	指標③ 来場者数(施設利用者数) 指標④ 新江日野の茶取引先の数 指標⑤ 茶葉生産量	100 0 件 0.5 t	人 H30.3 H30.3 H30.3	0 0 0	・日野のだから未来につなげて異なる取り組みに努めます。 ・お茶のある日常生活が日野西大路地区の活性化です。 ・管理運営に人材確保が必要です。 ・事業目的達成に向けて努力してください。
3	キラリライフ定住移住促進事業		500,000	指標① 定住・移住者数 指標② 人と人(複数の地域)ミユ二ニティをつなぐ等の創造	15 人 5 ケ所	人 H30.3 H30.3	14 6	・コミュニケーションの強さとして進んでいることが評価できます。 ・駐車場スペースでのイベントとCafeと連携をとって、貯金のイベントとして有効活用していくべきです。 ・このイベントの運営を通じて観光客を招致する活動につなげていきます。 ・鉄道にからめてのイベントを置いてください。 ・シニア層と若者との交流ができる工夫も必要です。 ・情報発信にも力を入れてください。
4	THE近江・魅力満載プロジェクト	推進交付金	7,544,000	指標① 事業実績 指標② 事業実績 指標③ 事業実績 指標④ 事業実績 指標⑤ 事業実績				広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標(KPI)が無い事業です。
5	滋賀ローカルイノベーションプロジェクト ～地域産業の創生～	推進交付金	73,000	指標① 事業実績 指標② 事業実績 指標③ 事業実績 指標④ 事業実績 指標⑤ 事業実績				広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標(KPI)が無い事業です。
6	滋賀ローカルイノベーションプロジェクト ～地域産業の創生～	推進交付金	2,364,000	指標① 事業実績 指標② 事業実績 指標③ 事業実績 指標④ 事業実績 指標⑤ 事業実績				広域連携事業のため、町独自の重要業績評価指標(KPI)が無い事業です。

7. 検証のまとめ

1) 量的（KPI）検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標（KPI）について、町が定めている年度別の目標値に対する実績値の達成率について、検証を行い5段階評価として集計を行ないました。

検証結果については、次のとおり。

(詳細は、P. 7, 8参照)

KPI の検証結果	重要業績評価指標（KPI） の達成度	施策数	比率
量S	100%～90%以上	32 施策	64.0%
量A	90%未満～70%以上	8 施策	16.0%
量B	70%未満～50%以上	3 施策	6.0%
量C	50%未満～30%以上	3 施策	6.0%
量D	30%未満～0%以上	4 施策	8.0%

検証した施策の中で最も多のが、量S（達成度 100%～90%以上）で 32 施策（64.0%）、次いで、量 A（達成度 90%未満～70%以上）が 8 施策（16.0%）という結果になっています。

量Sの評価については、昨年度は 38 施策であったのに対し、今年度は 32 施策と減ってきてています。これは、総合戦略の計画期間に関わるものと考えられます。計画期間とは、平成27年度から平成31年度の5年間であり、町が定める年度別目標値については、平成31年度の計画期間最終年度に向けて、計画的に目標値が定められています。今年度はその計画が3年目となり、各施策が掲げた KPI 目標値が高くなっていますが、それに到達できない施策が増え、目標達成度は昨年までに比べ低くなっています。

次に、量D（達成度 30%未満～0%以上）の評価については、4 施策（8%）と昨年より減少しています。この4施策は D 評価となりましたが、一定実績ができる方向で取り組みが進んでいることから、来年度以降、結果が上がることを期待します。

2) 質的（取組内容）検証のまとめ

全ての施策に設定されている重要業績評価指標（KPI）だけでは計れない、取り組み内容の質的な充実について、検証を行い5段階評価として集計を行ないました。

検証結果については、次のとおり。

(詳細は、P. 9, 10参照)

質的検証結果	質的検証結果の内容	施策数	比率
質S	内容を十分に理解し、取り組みにより達成している	0 施策	0.0%
質A	内容を理解した取り組みを実施し、課題解決や達成に向けた取り組みができている	1 施策	2.0%
質B	内容を理解し、取り組みができている	37 施策	74.0%
質C	概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分	12 施策	24.0%
質D	あまり内容を踏まえて取り組めていない	0 施策	0.0%

検証した施策の中で最も多のが、質 B（内容を理解し、取り組みができている）で 37 施策（74.0%）、次いで、質 C（概ね内容を踏まえているが、取り組みが不十分）が 12 施策（24.0%）という結果になっています。

質Bの割合が高い要因は、施策の内容、基本目標および基本的方向の趣旨に沿って、計画期間3年目として、施策の取り組みを順当に進めたことによるものと考えられます。昨年度よりも8施策増えた結果となりました。

次に、質Cが高い割合になっていることについては、概ね施策の内容に沿って取り組んでいるものの、めざす姿である基本目標および基本的方向を踏まえ、総合戦略を構成する施策であるという観点からの取り組みが弱いものが見受けられたことから、このような結果になったと考えられます。

3) 基本目標別のまとめ

基本目標（1）まちのたからで雇用を創る （詳細は、P. 11参照）

検証結果では、10施策中で最も多いのが、A（優れている）で6施策（60.0%）、次いで、B（実施できている）が3施策（30.0%）、C（工夫が必要）が1施策（10.0%）という結果になっています。

A（優れている）とされた施策

- (1) -2 「地域内経済循環の推進」
- (1) -4 「魅力ある商店づくりの促進」
- (1) -5 「農業経営体の育成」
- (1) -6 「地元野菜生産者の担い手育成」
- (1) -8 「獣肉の利活用を促進」
- (1) -10 「高齢者の生きがい創出」

B（実施できている）とされた施策

- (1) -1 「創業・第2創業の促進」
- (1) -3 「企業誘致と企業・異業種間の交流促進」
- (1) -7 「日野菜のブランド化の促進」

C（工夫が必要）とされた施策

- (1) -9 「若者等の就職相談窓口の整備」

『基本目標（1）まちのたからで雇用を創る』にかかる取り組みについては、農家民泊の取り組みを“まちのたから”として政策的に捉え、「地元商店街での購買促進」等町の活性化につながる取り組みとし、地域内経済循環に資することが必要です。また、地域資源の掘り起こし策として、営農を守り、集落を守る農業や野菜生産者の育成に努め、特産品振興に力をいれることができます。

また、C（工夫が必要）とされた施策「若者等の就職相談窓口の整備」については、町への愛着をもってもらう教育と共に、町独自のキャリア教育の取り組みを進めていくことが必要です。

基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る （詳細は、P. 12参照）

検証結果では、11施策中で最も多いのが、A（優れている）で7施策（63.6%）、次いで、B（実施できている）が3施策（27.2%）、C（工夫が必要）が1施策（10.0%）という結果になっています。

A（優れている）とされた施策

- (2) -1 「体験型観光の推進」
- (2) -2 「観光受入体制の整備」
- (2) -4 「日野の「だから」の伝承促進」
- (2) -5 「伝統文化等後継者育成の促進」
- (2) -6 「生涯学習の機会の充実」
- (2) -8 「空き家を活用した定住促進」
- (2) -10 「多文化共生の推進」

B（実施できている）とされた施策

- (2) -3 「日野の「だから」情報発信の推進」
- (2) -7 「定住支援相談窓口の整備」
- (2) -11 「スポーツによる交流の促進」

C（工夫が必要）とされた施策

- (2) -9 「空き地等を活用した定住促進」

『基本目標（2）出会いと発見で人の流れを作る』にかかる取り組みとしては、観光をはじめ、伝統文化等の継承や、スポーツ活動等さまざまな活動の中で、まちの跡継ぎをこの町で育てるという視点をもち、「人と人」との出会いの機会をつくり、日野の魅力を伝えることで、人同士の交流のなかから、まちへの愛着が芽生え、将来の移住・定住に結び付く取り組みとなることが求められています。また、日野の暮らしをイメージできるような、情報発信と交流を行っていくこともあわせて必要です。

伝統文化等の後継者育成については、小さな子どもに対して取り組みをすることがより効果的であるとの意見がありました。

C（工夫が必要）とされた施策「空き地等を活用した定住促進」については、平成29年度に県宅建協会と協定を締結されたことから、空き家と併せて、今後「空き家・空き地情報登録制度」を充実させ、移住・定住へつながることが期待されます。

基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる（詳細は、P. 13参照）

検証結果では、15施策中で最も多いのが、B（実施できている）で7施策（46.7%）、次いで、A（優れている）が6施策（40%）、C（工夫が必要）が2施策（13.3%）という結果になっています。

A（優れている）とされた施策

- (3) -1 「出会いの場の創出」
- (3) -2 「産み育てやすい環境の充実」
- (3) -4 「保育所の整備」
- (3) -9 「福祉医療制度の実施」
- (3) -11 「子ども読書活動推進」
- (3) -12 「働きやすい職場環境の推進」

B（実施できている）とされた施策

- (3) -3 「乳幼児健診における保健指導の充実」

- (3) -5 「子育て期間中の保護者の交流促進」
 - (3) -6 「子育て支援員の確保」
 - (3) -7 「ファミリーサポートセンターの整備」
 - (3) -13 「学童保育所の整備」
 - (3) -14 「児童・生徒の自主的学習支援の推進」
 - (3) -15 「奨学金制度の充実」
- C (工夫が必要)
- (3) -8 「交流できる場の充実」
 - (3) -10 「障がい児の支援の充実」

『基本目標（3）結婚・出産・子育ての希望をみんなで支えてかなえる』については、多世代で交流できる場を充実させ、地域の力の中で「切れ目のない支援」とはどのようなもので、どのようにやっていくのかについて、関連部局と連携をはかる中で、改めて考えていく必要があります。また、今の各種の取り組みの利用者が将来の支援者になる視点をもち、人材育成・人材確保を行い、世代間での支えあいの循環が計れる仕組みづくりに取り組んでください。

C (工夫が必要) とされた施策「交流できる場の充実」については、ハード面での方向性が見えてきましたが、多世代で交流できるソフト面での取り組みを進めてください。「障がい児支援の充実」については、設定時のKPIの考え方について確認が必要です。取り組みの実態はあるようですので、適切な評価となるようにしてください。

基本目標（4）暮らしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる

(詳細は、P. 14参照)

検証結果では、14施策中で最も多いのが、A(優れている)で9施策(64.3%)、次いで、B(実施できている)が5施策(35.7%)という結果になっています。

- A(優れている)とされた施策
- (4) -1 「進取のまちの推進」
 - (4) -2 「地域福祉活動の推進」
 - (4) -4 「コミュニティビジネスの創出」
 - (4) -6 「学びの機会の充実」
 - (4) -8 「障がい者の就労促進」
 - (4) -9 「障がい福祉サービスの充実」
 - (4) -11 「犯罪・事故のないまちづくりの推進」
 - (4) -12 「消防団活動の充実」
 - (4) -14 「公共交通の利用促進」
- B(実施できている)とされた施策
- (4) -3 「ボランティア団体の組織化の促進」
 - (4) -5 「異文化・多世代交流の創出」
 - (4) -7 「農林業を活かした中間就労の創出」
 - (4) -10 「介護予防の促進・高齢者の自主的な活動支援」
 - (4) -13 「自主防災組織の育成」

『基本目標（4）くらしやすい地域とつながり、安心して住み続けられるまちをつくる』については、まちを元気にするため、住民の中にある力量を発見し育てるところから、住民の得意をまちづくりに活かし、学びや生きがいのもちてる活動を増やす必要があります。また、地域のサロン等の取り組みを高齢者だけの施策にとどめず、若い世代から子どもへ、住民自治につながる息の長い取り組みとなるよう働きかけをしてください。

まちの安心をつくる取り組みから、地域の住民自治の活動を育て支える取り組みを意識してください。

4)まとめ

ここまで「日野町くらし安心ひとつづくり総合戦略（以下、総合戦略）」の検証を行ってきました。本報告書を手に取った皆さんには、検証結果をどのようにご覧になったでしょうか。

本報告書は、50本の施策について、「量的検証」と「質的検証」を行い、その合計点数を各施策の検証結果としています。また、四つの基本目標については、50本の施策の検証結果を踏まえて、総合的な評価を行ってきました。

本報告書をお読みになった皆さんは、報告書における「数値化」された「検証結果」に注目されたのではないかと推察されます。そこで、最後に、総合計画懇話会の検証過程と検証結果からみえてきたこと、検証を今後に活かすためのコメントを記して、まとめにしたいと思います。

評価方法について

本報告書の検証結果は、総合戦略に関わる施策がどの程度成果を上げているのかを総合的に評価するために、「量的検証項目として重要業績評価指標(KPI)（以下、KPIとする）の達成度の評価」と「その施策の中身がどの程度充実したものであったのかを4つの観点から評価する質的検証項目の評価」を行い、これら量的評価と質的評価の合計点を持って総合評価を行うという評価方法をとっています。この評価方法は、「外形的な達成度」にとどまらず、「質的・内容的な充実度」も検証しようとする工夫です。一般的に、KPIを設定するとその達成度に目が行きがちですが、施策の質的・内容的な充実を図り、効果的な施策の展開をすすめて欲しいのでこのような評価方法を取り入れました。

具体的には、KPIの達成度で測る量的評価（満点10点）と四つの検証観点からの質的評価（1観点5点満点の4つの観点、満点20点）の二つの評価点を出し、その量的検証と質的検証の合計点数によって、5段階の「検証結果」としました。量的検証10点と質的検証20点と配点し、質的検証の配点を2倍にしています。しかし、例年、KPIの達成度が高ければ、検証結果も高い評価を得ています。質的検証で難があっても、KPIが高得点であれば、高い評価を受けている場合もあります。そもそも、施策の総合評価には、量的評価と質的評価という異質な検証結果の合計点数を使っており、施策の評価には少し注意が必要です。

評価結果を読み解く上での留意点

検証結果は、量的評価と質的評価の検証点数の合計点を検証結果とする方式をとっていますので、そもそも異質な検証点数を合計していることに注意しながら総合的に評価を進めなければなりません。総合的に評価し、評価の適切さを高めるための二つ

の留意点を挙げておきます。

第一の留意点は、KPI の設定の適切さの問題です。KPI の達成度が高ければ、「検証結果」の評価も高くなるので、甘すぎる数値目標は「検証結果」を高めに評価してしまいます。そこで、KPI の値が高かった場合、主要な担当部局は「数値目標の設定が甘すぎなかったのか」と量的検証の数値目標の設定の適切性を検討する必要があります。また、「そもそも施策のアウトカム指標として適切な指標の設定であったのか」など目標の設定の適切さに立ち戻って、担当部局によって検討される必要もあります。今後の量的検証の評価をより適切にするために、KPI の目標そのものと数値目標の両方を適切に設定することが求められます。

第二の留意点は、「異質な検証点数を合計していることに注意」することに関連して、総合戦略の施策の評価と改善に関わる問題があります。合計点による検証結果は、15ページにあるように、B 評価（実施できている）が 18 個の 36%、A 評価（優れている）が 28 個 56% となり、C 評価（工夫が必要）が 4 個 8% となっています。A、B 評価が 92% を占めています。こうした数値ですが、A（優れている）、B（実施できている）と評価された項目の比率もさることながらそうした評価を達成している要因（量的評価と質的評価の検証得点状況）を注意深くみていかなければなりません。そして、今後、総合戦略の計画期間中の毎年の点検においても、「検証結果」の評価の高さに加えて、その質的な充実度が年々高まってきていたりするのかを注意深くみていく必要があります。

自己点検を政策改善プロセスに繋げる

検証結果が、A（優れている）との評価が出たとしても、施策の状況を「上手く実施できている」という現状に満足するのではなく、さらなる質的な改善を進めることを求める。

本報告書の検証方法は、総合戦略に関わる施策を自己点検しながらその施策内容を改善していく「自己点検・政策改善プロセス」を埋め込んだものとなっています。「自己点検・政策改善プロセス」を埋め込み、「質的・内容的な充実度」を評価することができるよう工夫したのが、質的評価（1 観点 5 点満点の 4 観点、満点 20 点）の部分です。この質的評価では、4 ページに示しているように「取り組み状況」「今後の取り組み」について、「施策の内容を踏まえて」と「（総合戦略の）基本目標と基本的方向を踏まえて」の二つの視点から自己点検をしていただきました。これは、「総合戦略」に記載されている施策内容そのものを点検する「従来型」自己点検に加えて、基本的目標・基本的方向性からの「深める」自己点検を行うという二段構えの施策内容の自己点検を行うことで、施策の改善の可能性について政策担当者に考えてもらえることを期待して、この評価方法を設計しました。この「深める」自己点検を埋め込んだ評

価方法を活用することで、政策立案能力の引き上げを図ることを企図しています。

従いまして、この自己点検プロセスをテコに施策を「(総合戦略の) 基本目標と基本的方向を踏まえて」一層の改善を進めることを求められています。とりわけ、各施策の検証の際に付された懇話会委員からのコメントに留意しながら施策を推進することで、各施策の課題を的確に把握し、その課題の解決を推進していくことにより、政策能力を高めていくことが求められます。

検証評価の意義と「自治の力で輝くまち」に向けて

本検証は、事業の進捗状況に関して、出来てないことを見つけて「ダメだ。ダメだ」と言うのが目的ではありません。まちを良くしていくために課題を丁寧に洗い出し、政策を改善していくこと、そうした検証プロセスを経て、日野町全体の政策能力の向上を図るのが目的です。

今回、3回目になる検証を行い、取り組み状況は全体としては進んでいることが明らかとなりましたが、質的な評価を下げている施策も見受けられ、施策の質的な向上を目指した改善が求められている施策もあります。量的評価と質的評価の両面からの総合的評価を活かして、施策の課題の洗い出しが出来ている点は、本検証の意義として特筆できるでしょう。

総合戦略は、住民委員から構成される総合計画懇話会での議論を踏まえて策定されました。そして、その総合戦略を総合計画懇話会で毎年検証し、まちの政策実施に当たっての課題を明らかにすことができました。住民の力で計画を策定し、検証しています。検証のプロセスで、住民主体の取り組みを推し進めが必要とされる施策もありました。住民主体の施策の取り組みが広がれば、総合戦略の策定から実施、評価に至るまで、住民参加による「自治の力で輝くまち」へと前進することとなります。

総合戦略は第5次日野町総合計画と関連しており、総合戦略と総合計画の施策の考え方には、共通する考え方として、施策の総合性の考え方があります。総合戦略は、総花的に施策を並べて、それを順次実施しておけば良いのではありません。総合戦略施策検証のプロセスを通じて、「基本目標・基本的方向性」を踏まえて、「持続的に発展可能な日野町をつくることを目指して」施策を総合的に展開すること、総合計画の目指す未来像「ひびきあい『日野のたから』を未来につなぐ 自治の力で輝くまち」に向けた取り組みを町役場と住民の協働で切り開いていくことが求められます。

(補論)

本報告書の総合評価結果は、B（実施できている）が18個の36%、A（優れている）が28個56%となり、C評価（工夫が必要）が4個8%となっています。A、B評価が92%を占めています。総合戦略の進捗状況の評価としては、「A、B評価が92%」であれば、概ね順調に進捗していると評価できます。一方で、日野町の人口推移を見てみると総合戦略策定時の見込み以上の人口減少となっています。人口減少に歯止めをかけることを目的とした総合戦略は順調に進んでいると評価されるのに、人口減少は進んでいるという二つの事実は事実として認識しなければいけません。この事実を真摯に受け止めることが必要です。また、この二つの事実から総合戦略は人口減少の歯止めになっていないのではないかとの見解も出てくるでしょう。しかし、そのような単純化した推測が難しいのが現実でもあります。第一に、日本全体の少子化・高齢化のなかで、日本中の市町村が総合戦略に取り組んでいるのですから今や人の奪い合い状況に陥っています。人口増を実現するのは困難な仕事です。第二に、「総合戦略の成果」が原因となって、直接的な結果として、日野町の人口増（自然増と社会増）になるという関係ではないからです。総合戦略は、「総合戦略の成果」によって、住みやすい日野町、住み続けたい日野町となることで、人口の流出の抑制やUJターンなどの移住者を増やすこと、子育てのしやすい環境をつくること、子育て世帯を支えることで出生増につながる環境をつくるところまでしか出来ないので。

それでは、総合戦略は意味がないのかと言えば、そうではありません。総合戦略の検証を通じて、町役場の政策形成能力を高めるとともに、住民主体のまちづくりを進める切り口が明らかとなってきています。今後、町役場の政策能力を高め、住民主体のまちづくりが進展することで、連続的にまちの課題が解決され、まちの魅力をたかめることができたならば、必ず日野町の人口増（自然増と社会増）にプラスに働くでしょう。そういう意味でも、総合戦略の検証プロセスは政策能力構築に結びついているので、重要なのです。

8. 資料編

1) 用語解説

用語	解説
PDCA サイクル	Plan-Do-Check-Action の略称。Plan（計画）、Do（実施）、Check（評価）、Action（改善）の4つの視点をプロセスの中に取り込むことで、プロセスを不斷のサイクルとし、継続的な改善を推進するマネジメント手法のこと
重要業績評価指標（ＫＰＩ）	Key Performance Indicator の略称。施策ごとの進捗状況を検証するために設定する指標のこと
SNS	ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略で、インターネット上の交流を通して社会的ネットワークを構築するサービスのこと
ファミリーサポートセンター	地域で育児の援助を受けたい人と支援したい人とを結ぶ組織のこと
コミュニティビジネス	地域資源を活かしながら地域課題の解決を「ビジネス」の手法で取り組むことで、地域の人材やノウハウ、施設、資金を活用することにより、地域における新たな創業や雇用の創出、働きがい、生きがいを生み出し、地域コミュニティの活性化につながるビジネスのこと
IT	コンピュータやデータ通信などの情報技術の総称のこと
第2創業	既に事業を営んでいる企業・事業者において、業態転換や新事業・新分野に進出する創業のこと
人・農地プラン	集落・地域が抱える人と農地の問題を解決するための未来の設計図のこと
6次産業化	農業などの第一次産業が食品加工・流通販売までの業務を行うこと
地域おこし協力隊	人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域活動を積極的に行ってもらい、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域の維持・強化を図っていくことを目的とした制度のこと
日野大当番仲間	江戸時代、日野には他国で商売を行った「日野商人」が多数存在し、商人相互の扶助のため、日野大当番仲間を組織しました。大当番仲間で、東海道や中山道の各宿場に現在の指定旅館ともいえる日野商人定宿を設けて、旅の便宜を図りました。（日野町にゆかりある人や応援していただける人、興味ある人など、町の内外を問わず、日野の「たから」を情報発信していただける仲間を、つくりついでいく仕組みとしてその名称を例示しています。）
Facebook	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の一種

用語	解説
Twitter	ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の一種
フォローアップ	行なった事柄について、その後も面倒をみること
多文化共生	国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと
ポールウォーキング	ポールを持って行なうウォーキングのこと
ワーク・ライフ・バランス	仕事と生活の調和のこと
レファレンスサービス	図書館の資料を使い、図書館利用者の調べものをサポートするサービスのこと
おたっしゃ教室	介護の原因になりやすい転倒骨折や閉じこもりによる生活機能の低下を防ぐため、機能回復と外出応援を目的とする介護予防事業のこと
デマンドタクシー	指定の場所から目的地まで、利用者の希望時間帯、乗車場所などの要望に、バス並みの料金で利用できる公共交通サービスこと
アウトカム指標	施策・事業の実施により発生する効果・成果（アウトカム）を表す指標

2) 総合計画懇話会の開催

実施日	実施内容	場所
平成30年4月17日	第1回懇話会	防災センター 研修室
平成30年5月1日	第2回懇話会	防災センター 研修室
平成30年5月15日	第3回懇話会	防災センター 研修室
平成30年6月5日	第4回懇話会	防災センター 研修室
平成30年6月25日	第5回懇話会	防災センター 研修室
平成30年7月4日	第6回懇話会	防災センター 研修室
平成30年7月17日	第7回懇話会	防災センター 研修室
平成30年7月31日	第8回懇話会	防災センター 研修室
平成30年8月21日	第9回懇話会	防災センター 研修室
平成30年9月21日	第10回懇話会	防災センター 研修室

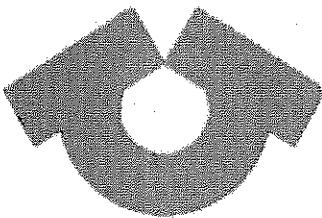
3) 日野町総合計画懇話会委員名簿

委員区分	氏名	所属・推薦団体等
学識経験者	会長 只友 景士	龍谷大学政策学部教授
団体等推薦	副会長 山本 身江子	日野町地域女性団体連合会
	岡 伊佐夫	農業関係団体（日野町農業委員会）
	松井 利夫（第5回まで就任）	日野町商工会
	岡 幸一（第6回より就任）	日野町商工会
	島田 正美	日野町企業協議会
	遠城 輝雄	日野町老人クラブ連合会
	澤村 僚	日野町青年代表

敬称略

日野町くらし安心ひとづくり総合戦略

— 人と人がつながりいきいきと輝くまち —



日野町くらし安心ひとづくり総合戦略 施策検証結果報告書（平成29年度）

平成30年（2018年）9月

【発行】日野町総合計画懇話会
事務局 日野町企画振興課
〒529-1698 滋賀県蒲生郡日野町河原一丁目1番地
電話：0748-52-6552
FAX：0748-52-2043
